

ユーモアスピーチ船橋

2024 (R6) 年 12 月 12 日 発行

ジョークは暮らしの調味料・ユーモアは人生のかくし味

215 回船橋ユーモアスピーチ

2024 年 12 月 12 日 (木) 3 分間スピーチ

スピーチテーマ 「今年的一年を振り返って」
「自由題」「失敗談」

ロングスピーチ

後藤 文男さん：
「東京大空襲で生き残った母の言葉」

11 月 14 日の参加者：稲葉、山本、松永、後藤、佐々木、
工藤、山田、飯野、中久木、石渡、町田、植野、長嶋
13 名

主催：NPOシニア大楽
ユーモアスピーチ共和国・船橋支部
支 部 長：長嶋秀治 043-261-5832
発 行 者：長嶋秀治
編集&事務局：町田雅和
267-0066 千葉市緑区あすみが丘
5-26-7 T/F 043-294-2911
mac555new@ybb. ne. jp
参加費 500 円 (入会金 1000 円)
見学科 1 回無料
開催日と場所 (原則)
毎月第②木曜日 15 : 15 ~ 17 : 30
会場 船橋中央公民館 第 2 集会室
4 階

前回のロングスピーチ (11 月 14 日)

「古典落語：八五郎出世」

石渡 巧さま

私の持ちネタでは一番好きな噺です。かつては「妾馬」という演題でしたがこの頃は「八五郎出世」として演じられる事が多くなりました。あの後八五郎が侍に取り立てられるが失敗ばかり、馬に乗れば後ろ向きに乗ったり。後半はあまり面白くないので前半を「八五郎出世」として演じることが多くなりました。



前回のロングスピーチ (11 月 14 日)

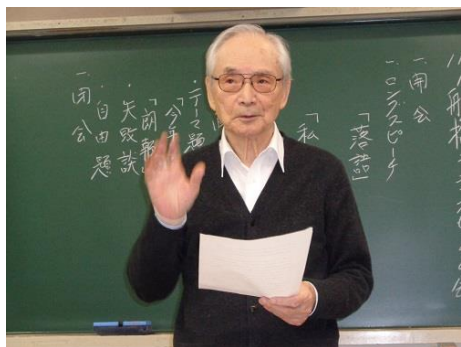
「私の回顧録から」

松永 成三郎さま

来年でちょうど終戦から80年になります。太平洋戦争が始まったのは 1941 年(昭和16年)の12月8日です。私が小学校3年生になっていました。終戦(敗戦)は1944年8月15日でちょうど私は中学(旧制)1年生でした。今日はその間の戦中・戦後の私の体験談をお話したいと思っています。

1944年(昭和16年)12月8日、日本軍の真珠湾攻撃で太平洋戦争がはじまります。開戦のラジオ放送は次のようなものです。「臨時ニュースを申し上げます。大本営陸海軍部、12月8日午前6時発表。帝国陸海軍は、本8日未明、西太平洋上においてアメリカ、イギリス軍と戦闘状態にはいれり」。

私は小学校5年生で旧満州国から、郷里の鹿児島にもどります。父は職業軍人でしたが、シンガポール(昭南特別市)に赴任しています。時代をさかのぼって両親の生い立ちと経歴を簡単にご紹介します。父は鹿児島県薩摩郡宮之城町、中農の三男坊として生まれ



ます。田舎の尋常小学校に通い、その後は高等科へ進学するわけですが、当時担任だった先生が、官費でも行ける学校ということで陸軍幼年学校への進学を勧めました。陸幼ってところは旧制中学校の中でも特に学術優等、品行方正なエリートしか行けないところだったそうです。母は同じ鹿児島ですが大隅半島の真ん中ぐらにある曾於郡恒吉村出身です。実家はもともと代々の獣医で薩摩士族に属していました。当時のほとんどがそうであったように、婚姻はほとんどが見合いで成立していた時代です。

太平洋戦争と第二次大戦との違いは、第二次大戦というのは1939年ドイツがポーランドに侵攻した時から始まるわけですが、その直後にまずイギリスが、その後にソ連(当時のソヴィエト連邦共和国)、ついでアメリカが連合国として参加しました。日本は種々のいきさつがありますが、1941年12月8日アメリカその他の連合国へ戦争を仕掛けます。ここからが太平洋戦争と称しているわけです。

しかし開戦からわずか7か月後のミッドウェー海戦で敗北を喫して以来、日本は次々と南方から撤退し、日本全土はグアムから飛来する B29により各都市が全部無差別爆撃の対象になり、徹底的に破壊されるようになり、最後は原子爆弾まで落とされたわけです。最後はいよいよ本土決戦と我々子供まで覚悟を決めていました。枢軸国の中で最後まで戦争を続けていたのは日本で、日本の連合国へ無条件降伏が、第二次大戦の終結となりました。

いよいよ沖縄までとられ結局何回かの御前会議があつて敗戦の詔勅が下されるのですが、その時の虚脱状態は忘れることができません。終戦の日は暑い日でした。京成津田沼から船橋の本町通りまで出てきてさまようわけですが、ほとんど人影もなく、店の前にところどころ新聞のビラが貼ったのを思い出します。終戦後2,3年の食生活は惨めなものでした。戦時中から食糧難に対処するため、荒地でもよく育つサツマイモの栽培が各地で広がっていました。さつまいもの種類は農林何号というのが多く、金時とか安納芋などは高価でなかなか手に入りませんでした。今でも思い出すのはサツマイモの切干しです。弁当もサツマイモのふかしたものでカバンの中で歩いたときに音がしていました。

ところが間もなく進駐してきたアメリカ兵は、ピシッとしたカーキ色の服に身を固め、jeep に乗って、宣撫工作でしょうか、チューインガムやチョコレートを要求に応じてくれたりしたものです。初めて覚えた英語が{give me chocolate}でしたから。

街角には白衣をまとった傷痕軍人が立っていて物乞いをする一方、厚化粧をした女性もあちこちいました。相手はもちろん進駐軍兵士です。ジャズがあつという間に流行り、またブルースなどうら悲しい曲も一時流行しました。並木路子のリンゴの唄、笠木シズ子、そのずっと後でフランク永井の「有楽町で逢いましょう」がはやります。戦前からあつた SKD や日劇ダンシングチーム etc.の活躍もありました。以上だいたい 1950 年頃までの話でした。

3 分間スピーチダイジェスト

テーマ 「今年の漢字一字」「朗報」

中久木 一乗：「高齢者の喫煙」

タバコ病は 65 歳までに発病が多いから 元気な高齢者は、それから無理して禁煙しなくても良いとの説にも一理あるが、環境への負荷、周囲の人々への精神的負荷、自己への心理的負荷などの面から、禁煙する意味はあると考える。

米国予防医学会雑誌の論文では 35~75 歳の間のさまざまな時点の喫煙状況を観察した結果が報告された。対象者を 3 種類(喫煙歴なし、喫煙継続、禁煙)に分類し、平均余命を割り出して比較した。35 歳は勿論、65 歳、75 歳でも禁煙により寿命の延長が観察された。(ダイヤモンド ONLINE) 喫煙をやめることがどの年齢でも有益である

と報告された。

飯野 望：「今年の流行語として」

大谷 50-50、石破新総理、大の里、コンビニ富士、インバウン井、新札、闇バイト値上げ、物価高、円安、パリオリンピック、名言が残せなかった！、やばい！かっこよすぎる俺！、過半数割れ、裏金、マイナンバーカード等など。

稲葉 勝弘：「朗報」

私自身は反省の毎日で何もありませんが、たまたま直近に私が通っている川柳教室の津田先生が旭日章を受賞されましたので我が事のように喜んでおります。

ところで老年に向かって詠んだ自作をご披露致します。

「誰だっけ今日も唱えるあいうえお」

「失礼な徘徊じゃないウォーキング」

「老人会ああはならぬと背を伸ばす」

とは言えお互い無理をせずやりましょう。

特に見栄はらずにそろそろ歩いて転ばぬように転倒防止に気をつけましょう!!

山田 正國：「自作絵画紹介」

添付の水墨画ナマハゲのつもりです。今年の薬円台公民館文化祭主展示作品の一つです。公民館のレツスンでは大体が先生から提示された見本絵画の模写が多いのですが、展示会出品作は創作画を描くようにしており、今年は添付のものとし、創作性を重視しました。少し絵画の領域の門をたたけたなと思っております。



山本 成夫：「私を救ったお医者さんのユニークな発言」

「がんもあるけど、心臓が先ですよ」、「次回、どうしましょうか?」、「お前は悪運が強いな!」、「今が取り時です」、「転ばぬ先の杖です」、「脳に障害が出なくて良かったですね」

今年7月この会場で、私は見事に転びました。聞くところによりますと、心肺停止状態で救急車に乗せられ、心臓は救急車内で蘇生されたが、意識が戻らず5日目にやっと戻ったそうです。生死をさ迷いました。1ヶ月入院し、今回もカテーテル手術をして退院しました。医師は言った。「脳に障害が出なくて良かったですね」と。私は「はい」と答えていました。私は悪運が強いのでしょうか! 「よく回復したね」と言われました。しかし、次の障害が出るとは、この時はまだ思いもよらなかった。この後は時間の都合上、次回お話しします。

町田 雅和：「今年の漢字一字」

今年の漢字一字は、「鰻」です。通常年に1~2回しか食べない鰻を今年は6回も食べました。その理由は、鰻の成瀬のお陰です、リーズナブルな値段で鰻を食べさせるお店で、鰻重の梅が1600円、竹が2200円、松が2600円。2000円以下で鰻重が食べられます、1号店の創業からわずか2年ほどで300店舗以上に拡大しています。船橋にもオープンしました、是非一度行って見て下さい。

工藤 文夫：「今年の漢字一字」

今年の漢字一字は、やはり「病」ですかね。ご承知のとおり、今年の前半は「前立腺肥大」で入院し、退院後も数ヶ月、禁酒(18歳以来、58年ぶり)を命令され、食生活は生まれて初のお米+薄い味噌汁と、なんかオーバーに言えば、人生を強制的に変えられたみたいで。11年前の2回目の狭心症でさえ、こんな事は感じませんでした。まあ、それだけ老化が進んだこと、死に近づいて来たのだとも思います。

佐々木 由美子：「朗報」

敬愛する万葉集の先生が認知症を発症したのは二年前。現在も講座は4か所で続いている。毎回、万葉の世界へ引き込む魅力的な講座は健在で第四期の防人の歌が終わった。残すは“大伴家持”最後の歌で終了する。先生の症状は猜疑心と被害妄想、これは発症時と本質的に変化はないが荒唐無稽な話は増え続けている。それでも、万葉集講座・お一人暮らしが続けられているということは朗報ではないか。

松永 成三郎：「インバウンド」**長嶋 秀治「自由題」**

10月中旬電子レンジが故障した。立て続けに風呂の給湯器が故障した。取り換えは31万円とのこと。考えてみれば、毎日銭湯に通ったとして1回500円で計算すると年間18万円。2人だと36万円。仕方なしと納得した。銀行に振込に行くとATMが作動しない。10万円以上は振り込めない。窓口に行くと70歳以上だったか75歳以上だったかは顔写真付きの本人確認できるものが必要とのこと。ヤレヤレ骨の折れること。最近悩ましいことにパソコンが不調。頭の痛いことが続く。

予告：1月 「船橋ユーモアスピーチの会」

1月9日(木) 15時15分～ 船橋中央公民館 4階 第2集会室
ロングスピーチ

即題スピーチのため、ロングスピーチはなし

スピーチテーマ 「今年の抱負」、
「自由題」、「失敗談」

※スピーチダイジェストの送付先 町田 mac555new@ybb.ne.jp